

特集

# 真剣勝負のとき

関金B&G海洋センターカヌー教室

2012.7 (2)



## 練習

*Training*

関金B&G海洋センター  
カヌー教室

関金B&G海洋センター(艇庫)は、昭和59年、旧関金町により大山池に建設された。町民が海洋性スポーツ、レクリエーションなどの活動を通し、健康増進と体力向上を図り、心のふれあいの場として豊かな人間性を養うことを目的に、\*B&G財団の協力を得て造られた。

その関金B&G海洋センターで、毎年、4月から8月の間、市内の小学校3年生から6年生を対象にしたカヌー教室が教育委員会により開催されている。受講生は10人足らずながら、三浦伸宏コーチの指導の下、毎年のように全国大会(全国少年少女カヌー大会)を席卷する全国屈指の強豪チームに育つ。

まっすぐ目標に向かって

「顔を上げろ！ 腕を下げるな！ 疲れても自分に負けるな！ 自分に負けんヤツが

\*B&G財団(公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団)：モーターボートレースの収益金で、全国各地に海洋性レクリエーションを軸とした実践活動のための施設を建設している団体。

## 目標に向かって



◀カヌーで1番大切なのはパドルの操り方。手前から奥の方にかけて、手前に戻すときは水の抵抗が起きないようにする。コツは水をキャッチする際にしっかりと水に刺し込み、水をつかむイメージ。それを三浦コーチが子どもたちに繰り返し教え込む。

Date

【大山池】

関金町泰久寺の高台にある「大山池」は、明治後半に、天神野地区の水田のかがい用として造られたため池。

正式名称は、地名にちなんだ「狼谷貯水溜池」だが、湖面に大山の姿がさかさに映ることから「大山池」という呼び名の方が親しまれている。周辺に無料キャンプ場もある。



コーチから message



関金B&G海洋センター艇庫カヌー教室  
三浦 伸宏コーチ

「子どもたちが自分の目標に向かってまっすぐ進もうとするのを手助けするのがぼくの役割。長所を伸ばしてやると、子どもはどんどん成長します。子どもと一緒に目標を達成したときの喜びがコーチの醍醐味。

今年も必ず味わいますよ」

子どもたちと一緒に目標を達成したい

レースにも勝つんだぞ！」  
大山や蒜山などの山々と木々の緑に囲まれ、網のような波模様が広がる美しい湖面。日常とは別世界と思われるような時間が流れる天と地の中に、三浦コーチの厳しく大きな声がこだまする。  
ブイとブイの間、200mを歩き来する子どもたちのカヌーの間を縫うように、三浦コーチのカヌーが走り、一人一人に直接指導の言葉をかけていく。

きれいなような嗚咽が混ざる。それでも子どもたちは、自分の背丈以上あるようなパドルを必死で操る。今年の受講生は7人。  
「彼らは、自分の目標をしっかり持っているから、今、何をしなければならぬのか誰よりも分かっている。だから自分との闘いなんです。ぼくの役割は、彼らが自分の目標に向かってまっすぐ進もうとするのを手助けすること」と三浦コーチは言う。

「よし、練習終わり！」  
三浦コーチの声で陸に上がった途端、子どもたちは無邪気さを取り戻す。  
三浦コーチをはじめとするコーチ陣に体当たりでじゃれつき、仲間同士でふざけあう。練習時間は午前中だが、ほとんどの子どもは弁当持ちでやって来て、帰る子はいない。午後カヌーに乗るためだ。

「それだけじゃないんですよ。練習の合間に、野いちごを取ってジャムを作ったり、小魚を獲ったりして遊ぶのが楽しいらしくて。学校の違う友達ができて、自然の中で遊ぶのはいいことだと思います。」  
それに、週末はここに来るために、金曜日の夜、自主的に宿題をするので、親としてもありがたいですね(笑)」  
と松本彩さん(小5)のお母さんは話す。  
松本彩さんも長石依吹さん(小4)も屈託なく話しかけてくれる。ここでなければ味わえない楽しいことがたくさんある。みんながライバルであり、楽しい仲間。この仲間とともに全国制覇を目指す。

楽しい仲間とともに



▲海洋センター付近に自生する野いちごで作ったジャムは好評だった。



# 勝負

Game

## 緊張の第一関門

6月16日(土)、「鳥取県小学生・中学生カヌー大会」当日。朝からあいにくの悪天候で、東郷湖は荒れ模様。急きよ、コースは近くの河川に変更された。勝負は、1回だけの一発勝負だ。

竹内祐太郎君(小6)は、これまで、全国大会で1位に

なったこともある実力ナンバーワンの教室ホープ。しかし、その分、重くのしかかるプレッシャーと緊張で少々落ち着かない。

「祐太郎、堂々としろ。絶対に勝てる」

三浦コーチが、竹内君をはじめ、子どもたちの両腕にマジックで励ましのメッセージを書いた。これで大丈夫だ。「よし行こう！」



前へ前へ。レースで懸命に漕ぐ谷田一真君。

# 一発勝負を突破せよ！

## 勝負の先にあるもの

昨年の秋からカヌーを始めたという谷田一真君(小4)は、この県大会に初めて出場した。いきなりスタートで出遅れ、先頭に1艇身以上引き離されてしまった。

「だめかー」

保護者の間からあきらめの声漏れる。

けれども、谷田君はあきら

めていなかった。歯を食いしばり、パドルを操り続け、先頭に追いつがる。いつも練習では、三浦コーチに「よそ見をするな！」と叱られるのに、この時ばかりはただひたすら前方を見据え、どんどん間を詰めていく。

「谷田君、腕を上げて、(波をつかんで！)」

三浦コーチが身を乗り出して叫ぶ。

保護者やコーチの誰もが固

唾をのんで見守る中、2艇がほぼ並んでゴールした。0.1秒。それが谷田君に足りなかった数字だ。2着だった。

「よく追いつけたな。頑張ったぞ」とねぎらう三浦コーチや、「全国大会で勝つ楽しみが増えたね」という周囲の励ましに、谷田君はいつもの人懐こい笑顔で応じた。

けれども、閉会式終了後、この日は会場に来られなかつ



▲鳥取県小学生・中学生カヌー大会では、教室として参加した全員が上位に入賞し、賞状をゲットした。

【左から】松本彩さん、谷田一真君、竹内祐太郎君、長石依吹さん、山田龍祐(りょうすけ)君





# 再起動

*Restart*

## Date

【B & G杯全国少年少女カヌー大会 2012】

B & G財団が、日ごろからカヌーを練習している青少年を対象に、練習成果を発表する場を与え、活動の継続を促し、競技大会を通してカヌー競技力の向上を目指すとともに、参加者相互の連携と親睦を図ることを目的に開催する。

と き：7月28日(土)～29日(日)※予定

と ころ：精進湖カヌー競技場(山梨県富士河口湖町)

た、いつも練習を見守ってくれる父親の声を電話で聞いたとき、こらえきれずに大粒の涙があふれ出した。

「もしもし」の後は言葉が出ない。電話越しの父親の言葉に黙ってうなずくだけで、何度ぬぐっても涙は止まらなかった。でも、  
「そんなに泣くなら、もうカヌーは辞めたら？」

そう尋ねたときだけ、涙にぬれた顔をきつと上げ、「絶対にやめない」と言い切った。

その顔は、すでに全国大会でのリベンジを誓っていた。レースを見つめる三浦コーチが、感極まったようにつぶやいていた。  
「みんな、エエ顔しとるわ」

## 君たちならできる

大会から一夜明けた6月17日(日)、大山池のカヌー教室には、昨日出場した選手全員の姿があった。

空気が先週末までと全く違う。どの子の顔にも、全国大会という次の高みへ挑む緊張と決意がみなぎっていた。  
早速、ミーティングで昨日の大会を振り返る。  
「スタートが悪かったので、練習したい」

「腕が下がったから上げるように意識して練習する」

子どもたちは次々に反省点とこれからの練習での努力目標を口にした。

三浦コーチが言う「自分で目標を立て、それに向かって

まっすぐ努力する子」たちだ。「昨日のレースで学んだことは、君たちが一番よく分かっていると思う。今度は、それを生かして次に進まなければならぬ。練習をすれば必ず伸びる。必ず全員が全国大会の表彰台に乗る。『乗りたい』じゃなく、『乗る』んだ。君たちならできる。これから1か月、集中して頑張ろう」

三浦コーチのとおっておきの活を受け、子どもたちはさらに表情を引き締め、この日も湖面に向かった。

## 富士山のような高みを目指して

## 保護者から message



山田 俊さん(山田龍祐君(小6)の父)

「龍祐は、いとこ(竹内祐太郎君)に誘われてカヌーを始めました。精神的にも体力的にも力がついてきて頼もしいですね。全国大会の精進湖は富士山の麓にあります。大会で富士山を見ながら、同じような高みを目指してあげたいと思います」

# 更なる 高みへ

